

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 第4回会員総会 P 2
- 共鳴しあう人間関係 (講演抄録) ... P 4
- 春の二風谷に里帰りして P 7



植えたばかりのアンズにやる水を運ぶ。バケツは意外と重い (天鎮県白舎科村小学校付属果樹園)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1998・7

62

緑の地球ネットワーク第4回会員総会 NPO法人化にむけて節目のとき



緑の地球ネットワーク第4回会員総会が、1998年6月6日（土）大阪国際交流センターにおいて開かれました。

会員608名のうち、出席57名、委任状提出18名で、3分の1以上の定足数を満たして成立しました。

中国黄土高原の緑化協力、北海道二風谷のナショナルトラスト『チコロナイ』、関東ブランチの活動報告・承認と、1997年度決算・1998年度予算報告・承認のあと、以下の2点について提案がおこなわれ、承認されました。

①特定非営利活動促進法に基づく法人格取得準備について

「特定非営利活動促進法」（NPO法）が

1998年3月に成立しました。施行開始は98年12月1日が予定されています。

緑の地球ネットワークも、第3回会員総会の決定にもとづき、できるだけ早い段階で法人化を図ろうと思います。

そのために、第4期世話人会を特定非営利法人設立の発起人会とし、手続きを進めます。設立趣意書、会則（定款）等の作成は、発起人会の責任で行い、次期会員総会で報告して承認を求めるとします。

②会則の一部改訂

緑の地球ネットワーク会則（1996年11月30日第3回会員総会で改訂）の以下の部分を改訂します。

【現行の会則】

「第2章 会員」の「第8条（退会）」

第8条 2 会員が死亡したとき（団体会員の場合は、解散したとき）、又は、2年以上会費を滞納したときは、前項の規定に関わらず、当該会員は退会したものと

【改訂内容】

上記下線部を「1年以上」とする。

【改訂理由】

最初に1年分の会費を納入した人が、その後、会費を納入しなくても3年間にわたって会員資格をもつことは、社会の変化や人間の意識と関心の変化が激しいなかにあって、あまりに実態に則さないことがわかりました。上記のように改訂し、より機能的なネットワークの運営にしたいと思います。

■新役員の紹介■

緑の地球ネットワーク第4期役員はつぎの方々です（敬称略・順不同）。

【顧問】石原忠一／小川房人／遠田 宏

【代表】立花吉茂

【副代表】西山五郎／有元幹明

【事務局長】高見邦雄

【会計】太田房子

【世話人】竹中 隆／前川 宏／板坂靖彦／武田繁典／川島和義／巽 良生／上田 信／深尾葉子／山永ユカリ／東川貴子／嶋田光雄／長坂健司／工藤寛之／紙谷周三郎／宮崎いずみ／倉持幸恵／紙谷輝江

【会計監査】松橋二郎／早草 晋

私たちの地球村のために

～第4回会員総会の開催を祝賀して～

祁学峰（大同市青年連合会主席・緑色地球ネットワーク大同事務所所長）

尊敬する立花代表、会員のみなさん。

今年5月初め、私たちは黄土高原で「環境保全国際ボランティアキャンプ」を成功させました。イギリス・日本などのボランティアが大同で植樹労働に参加し、それにもとづいて、私たちは1本の映像作品をつくりました。そのタイトルが「私たちの地球村のために」です。みなさんが第4回会員総会を開催されるにあたり、私はこの作品のタイトルをみなさんに捧げ、緑の地球ネットワーク第4回会員総会の成功をお祝いすることにします。

私たちの地球村のために～この題は私にたくさんのことを考えさせます。4年前、私は大同市青年連合会副主席の身分で、任務として、緑の地球ネットワークが開始した黄土高原緑化協力活動に関わるようになりました。私は小さいときから都市で育ち、農村の状況はなにも知らず、大同の周囲のいくつもの県がとても困難な状況におかれていることも知りませんでした。高見さんといっしょに農村

に深くはいつてその地の生活を体験するようになり、4年のうちに辛酸をなめ尽くし、知らず知らずのうちに黄土高原の農村に深い感情をもつようになりました。質朴な農民と友人として交わり、また高見さんをはじめたくさんの日本の友人と深い友情を結ぶようになったのです。

この手紙を出そうとしているところに、いいニュースがはいりました。去年テレビ朝日が放映した『素敵な宇宙船地球号』のなかで取り上げられた広霊県平城郷苑西庄村の井戸掘りにたいして日本から資金提供をうけ、工事ははじめることになりましたが、計画通りに水がでて、住民と家畜の水の問題を解決できることになったのです。この村は4年前、私が高見さんといっしょに考察した最初の貧困な農村であり、その年の降水量はわずか200mmしかなく、井戸は4つあっても人と家畜の飲み水を解決することはできませんでした。以前にはそのときのことを「忘れがたい平城」という文章に書き、

みなさんの会報に掲載されたことがあります。この数年間の努力を通じて、そのような貧困な農村の基本的な生存環境を改善することができたのです。小さな1つの村のために、こんなに多くの人が心血を注いでくれるのなら、私たちの緑化事業にもっとたくさんの困難があったとしても、私たちの地球村のための数代にわたる努力を通じて、必ず解決にむかうことができるでしょう。

健康上の問題で、私はこの春の緑化協力団の活動に参加することができず、たいへん残念に思っています。しかし私の身はベッドにあっても、心はみなさんとともにあり、私はこの数年の収穫と教訓を振り返って総括し、1つの結論をえしました。私たちの緑化事業には困難があるけれども、成功させることができる、そのポイントは確信を持ちつづけることだ、というものです。そしてもう1つ、簡単な道理ですが、みなさん、私たちのこの事業のために、健康には十分に気をつけてください。

緑の地球ネットワーク第4回会員総会の成功を心からお祝いいたします。



第4回会員総会にあたって

王 黎 傑

(緑色地球ネットワーク北京事務所)

緑の地球ネットワーク第4回会員総会の開催にあたって、その成功を北京からお祝いいたします。1999年から始まった緑の地球ネットワークの活動は、今年で7年目になります。このかんのことを振り返ると、感動的なこと、楽しいことがたくさんあり、また苦しいときもありました。会員のみなさんのご支持とご努力によって、緑の地球ネットワークの事業はここまで発展してきたのだと思います。

みなさんが1人1人の実際の行動をつうじて、大同地区の辺鄙な農村の人びとは不信感をなくし、親近感を深めました。組織的な手配もなしで、外国の人たちが中国の農村に入って、農民と直に交流することは、このネットワークの活動以外ではできません。こんな貴重な体験は、十数年間、日本関係の仕事に従事してきた私にとってもはじめてのことです。

みなさんは日本におり、私は北京にいますが、緑の事業はあなたがたと私とを大同の人びとと密接に繋いでいます。日本の友人、北京の仲間といっしょに、微力ながら私もこの事業を応援していきたいと思えます。

ボーナスカンパのお願い

GENが中国山西省黄土高原の緑化協力を開始した1999年の資金協力は10万円(約250万円)でした。6年目の昨年(1999年度)は約18万円(2,588万円)になりました。各助成金も含め多くの方々のご協力によるものと感謝しています。

これら協力金によって、これまでに2,560haの土地に705万本の苗木を植えました。地球環境林センターの基本建設もほぼ完成しました。今年度からは樹種の多様化のための地球環境林センターの霊丘支所と植物園の建設にも協力します。

引き続き黄土高原の緑化と、活動内容の充実をめざし、当地の農民・スタッフの方々とは協力してこの活動を根付かせていきます。今年も植林協力のためのカンパにみなさんのご協力をお願いします。

同封の振替用紙をご利用ください。最近にご協力いただいた方には重ねてのお願いではありませんが、作業の都合で一律に同封しましたので、ご了解ください。

中国黄土高原訪問雑記

清水 あつ子

(富士ゼロックス株式会社)

海外ボランティアの楽しさのひとつに現地の人びととのふれあいがありますが、今回も多くのお会いがありました。まずは、植林をした小学校の生徒。小学校4～5年生でしょうか。紅いほっぺたの男女20人くらいが、熱烈歓迎の機械体操のような踊りと寸劇のようなかけあいを見事に演じてみせてくれました。父兄や村中の人もお祭りの時のように皆集まって楽しそうに見ています。30～40分くらいだったでしょうか。終わって部屋に戻ったところに、フォトマで取った写真を持って行って見せると、誇り高く満足気に受け取ってくれました。小学校の果樹園に杏の苗木を植えました。杏は7年くらいで収穫できるとのこと。5年くらいたった杏の畑を見せていただくと、私たちの作業にも希望が見えてきました。環境の緑化と小学校への収入が確保されるという一石二鳥の段取りですが、砂のような荒れ地で緑のないところに付くのだろうかとは半信半疑の私たちでした。

各農家で4人ずつにわかれ食事をご馳走になりましたが、見渡す限り緑はちょっとしかないのに、いろいろな野菜が出てきます。めずらしいところでは小豆粟粥というものや、豆腐が鶏肉のような感じになったもの、おいしいけれど、ちょっと油っぽいかなという印象でした。

そうしたらお腹に来たのか、熱が出てしまい38.2度。オンドルであぶられて気持ちが悪いわ、お腹は変だわ、野外のト

イレ(単に2m四方の大きな穴)へ夜中に4度も駆け込む。ホームステイ先の奥さんもとても心配してくださっている様子がわかる。言葉は通じなくてもこんな時に心のふれあいを感じます。別れのときお土産に、きれいな刺繍をほどこした靴の中敷きをいただく。贈り物がこれほど嬉しいと感じたのは久しぶりのような気がしました。

地球環境林センターはライラックとりんごの花盛りで、夢の花園のようです。「緑の地球ネットワーク」の中国にかけるところまでの熱意はどこから生まれるのだろうかと感じました。この砂漠のような黄土高原の緑化をしようなどという私から見たら途方もない事を考え、それに協力する人を集め、着々と実行していく。誇り高く、この地に暮らしてきた人々と協力しながら、自分達のこととして保全活動を続けてもらう。自分の生きていくときに結果を、見られるかどうか判らない事業に命を懸ける人間の素晴らしさに感動したのが一番の収穫でした。



根付くことを祈りながらアンスを植える

助成金・ご寄付

黄土高原での緑化協力事業に対して、以前にお知らせした以外に、現在、次の助成が決まっています。

- 国際開発救援財団
1,768,000円の助成が決まりました。
- 経団連自然保護基金
2,000,000円の助成が決まりました。
- 環境事業団地球環境基金
3,100,000円の助成が決まりました。
- JAグループレインボー環境基金
4,000,000円の助成が決まりました。
- 郵政省国際ボランティア貯金
10,308,000円の配分が決まりました。
- 外務省草の根無償資金協力

US\$83,967.-の助成が決まりました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

春のワーキングツアーに参加された井谷宣次さんのご息が先ごろ亡くなられ、井谷さんより香典の一部100万円をGENに寄付していただきました。

香典を寄せられたの方々には、ご遺族から絵はがき「中国・黄土高原の四季」1組と趣旨を書いたお礼状が送られました。若い命をなくされたご遺族の悲しみを思い、せめて黄色い大地に緑を植え、大切に見守っていきたいと思います。この趣旨を大同事務所へ伝え、植樹にふさわしい場所や樹種を選んでもらうことにしています。

中村尚司さん講演抄録

共鳴しあう人間関係

～21世紀の社会システム

書き言葉は共鳴しない... 中国は文字を使い始めてひどい社会を作ってしまった... 読み書き算盤が諸悪の根源... 文字を扱うのは最大の権力者、というような話を文字にまとめると、一体どういふことになるのでしょうか。

緑の地球ネットワーク第4回会員総会の記念講演は、龍谷大学の中村尚司さんが講師をされました。喉頭癌でかなりの部分が失われた声帯から発した中村さんの心の振動を、私の要約で読者の鼓膜に共鳴させようという、無謀としか言いようのない作業の結果は、以下のとおりです。(文責=川島和義、小見出しは編集部による)

●循環、多様、関係と共鳴

今日は、「循環」と「多様」と「関係」を基礎にして、21世紀の社会をどういふふうにしていけばいいかというお話をしようと思って来ました。

昨夜、皆さんの活動のビデオを見ました。黄土高原で循環が破壊されて、人びとがかかかか苦しんでいるかは、皆さんがよくご存じです。多様な生態系が重要であることは、木を植えながらお気づきでしょう。関係についても、地域の人びとと関係を深めることが、自分の生き方に重要な意味を持つことは体験的に気づきでしょうから、私が新たに言うことはあまりありません。

日本社会は、モノは豊かになったがココロは貧しくなったと言われます。ココロが貧しいというのは、わかったようでよくわかりません。ただ、ココロの貧しさを豊かさに転換していく仕方は、循環、多様、関係という3つの営みを通じて変えていくわけですから、これは皆さんがこの10年間やってこられたことです。

皆さんの10年間の成果の延長線上に次の10年を考察することが決定的に重要な役割を果たします。それが21世紀の社会システムを作っていくのです。

今日の話は、「共鳴しあう人間関係」という題にしました。ココロの貧しさ、豊かさというものをどういふふうにとらえ直していけばいいか、新しい視点を持ち込むことができるかと思って「共鳴」という言葉を考えました。

●豊かさの指標

貧しさや豊かさにとって、お金や衣食住は重要ではありません。

インドネシアで、毛皮を着ることは苦しみです。インドの人にとっては、牛肉を食べるのは苦痛です。ネパール山岳地帯の石の住居は、熱帯の高湿度の地方では、快適ではありません。牛肉を食べる

アメリカの食生活がインドより豊かだとは言えないのです。

世界銀行は、学校がたくさんでき、教師もたくさんいることが豊かだと考えているようですが、これも豊かさとは関係ありません。日本には生涯学習局というのがありますが、私たちは生涯学習させられたら豊かな気持ちになるのでしょうか。

国連の開発計画などは、病院を増やそうと言います。私も喉頭癌で100日以上病院で暮らしましたが、病院にいることが豊かな暮らしとは思えません。多くの人は、病院ではなく畳の上で死にたいと思いますが、日本社会では畳の上で死ぬことが難しくなっています。

1975年には、アメリカで精神病院に収容されている患者さんの数が日本に追い抜かれました。以来、厚生省の患者統計はずっと増え続けています。

病院や学校の数でも、豊かさを表わすことはできないのです。

私は、豊かさの指標として、①地域内物質循環率、②女性の経済活動参加、③ボランティア活動、を考えました。

①の地域内物質循環ですが、世界の面積の1%に満たない日本列島に、世界の海運貨物の30%が集まっています。日本列島には9億トンの物が入ってきて1億トンの物が出ていく状態が続いており、大量の物が(廃棄物として)積み残されます。これは、人類の歴史で類例がないものです。

私たちは、豊かになろうとすれば、バナナの皮やえびの皮を海外に返すことも考えなければならぬ状況です。

②の女性の経済活動参加ですが、日本の大企業の重役に女性がほとんどいないのはよく知られています。もちろん、私は、女性が重役になることで豊かな社会が実現できると言っているのではありません。人類の半分を占める女性が経済活動に参加するということを、経済活動の



多様性という意味で考えています。会社中心主義でなく、自営業のネットワークのようなものを経済活動の中心にしていく社会です。

③は、関係ということで、ボランティアが多い社会は豊かだと考えてみたらどうかということです。

実はボランティアというのは、うさん臭い無責任な存在です。これを豊かさの担い手としてとらえなおしていくには、どういふ道があるか考えたいと思います。

本来ボランティアは「人殺しの上手な人」のことです。軍隊の志願兵が、ボランティアです。日本は、憲法で戦争を放棄したから、本来の意味とは違った、ただ働きで自発的で公共的な活動のようなものにしてしまったのです。

ただ働きということについて言えば、国連ボランティアは、30万円の給料を貰っているし、フランス外人部隊には、普通より高い給料が出ています。ただ働きがボランティアなら、縄文時代の人はみんなボランティアになります。自発的ということでも、会社で働く多くの人たちは、出世のためかもしれないませんが、自発的に熱心に仕事をしています。また、公共性というのは、たいへんうさん臭いものです。

そこで、私なりにボランティアという言葉の定義を考えました。まず、越境する(見知らぬ世界に入って何かをする)、次に、仕事をひとつだけでなく、余分にひきうける(多元的に活動する)、最後に、人間相手に活動をする(工作者とか媒介者)、一言でまとめて言えば「越境する多重生活の媒介者」ということになるでしょうか。

●心のありか

以上が豊かさ指標ですが、本当は指標なんてどうでもいいんです。ココロを豊かにするというのを考えるときに、ココロが判然としないのは困るので、こんなことをお話ししたわけです。

ココロがどこにあるか。心臓でもなければ、大脳組織の中でもなくて、人の皮



膚の外にあるのです。人間が人と人之間であるように、ココロも人と人之間、それも、そんなに遠いところではなく、肉声が届く範囲にあるのです。

世界というのは、声帯の振動が鼓膜の振動に共鳴しあうその範囲であって、それ以上のことをやり始めると、人は恐ろしいことをやってしまう。中国では、文字を使い始めて以来ひどい社会を作ってしまった。科挙の制度が権力の制度を作ったんです。読み書き算盤が諸悪の根源と言ってもいいと思いますが、エジプトでも文字は神聖で、文字を扱うのは最大の権力者です。

スターリンは、書くことが最大の権力者になる道だと、最後まで書記長の名前にこだわりました。アメリカのオルブライト國務長官は官僚組織のトップですが、彼女が権力者なのは国家の書き手（State Secretary）だからなんですね。日本人は征夷大将軍が鎌倉幕府を開いたので、暴力や武力が権力の根元であると誤解していますが、書くということが権力社会、階級社会を作っていく上で根本的に重要なんです。

●地域に集い世界に羽ばたく

書き言葉は共鳴しません。書き言葉は、命令を確実に実行するにはうまくできたものですが、共鳴しあう関係をつくることはできないんです。

私たちがもう一度、豊かな心、共鳴しあう人間的なコミュニケーションと共働作業の社会を作ろうとすれば、声帯の振動が鼓膜の振動に共鳴しあう範囲で考えることです。

NGOの人たちは、“Think globally, act locally.”と言いますが、私は逆に「地域に集い世界に羽ばたく」とレジュメに書きました。考えるときは自分の生活の本拠を置く地域で、徹底的に身近な生活経験にこだわって考える。そして、行動するとき、空を飛ぶ鳥がヒマラヤを越えて飛んで行くように、あるいは、サケやマグロが大海を泳ぎ回るように、地球規模で行動する。その方が、読み書き算盤の上手な人に抑えつけられずに、豊かな生き方、人びとがお互いに共鳴しあう関係を作っていけるんじゃないだろうかと思います。

それから、いま「循環」「多様」「関係」をそれぞれ別個のように議論していますが、この3つは実は相互に非常に深く結び付いたことなんです。

川で生まれた200gのサケは、4kgになっ

て生まれ故郷に帰ってきます。これを妨げる人工構造物（ダム等）を作って、サケを養殖場で育てても、生物の多様性は守れません。立派な水族館、動物園、植物園のような施設の中で生き物の多様性を守ろうとしても、生き物は循環と多様性の結び付いた形で生命を全うするのだから、いくら水産技術が向上しても、水族館のシステムが大規模化しても、天然のサケが上ってくる営みに勝つことはできません。

本当に豊かな世界というのは、工作物なしの状態です。循環と多様とが結びついて、その上に人と人との共鳴しあう関係があることが望ましいのです。

●関係づくりが生き方の本質

私たちは、関係ということを考えてとき、身体性にこだわる必要があると考えますが、ザンビアで鏡のない生活をしている人たちがいます。その人たちに本人の写真を見せると、こんな人は知らないと言います。自分の顔を見たことがないんです。でも、その人たちの表情はとても豊かです。人間の笑顔は、自分のためではなく、だれか他の人のためにあるんですね。それも、見たことのない人のためではなく、声をかけられるところで出会える人たちのものである。そういうふうに私たちは生きていくんじゃないでしょうか。

私たちの生き方は、生物の一員であることから、決して離れられません。血液の循環が止まれば死んでしまうような「循環」が根本にあって、多様な動植物によって世界を構成するエコ・システムが非常に大切なのは、人間にとっても同様ですが、その上に、私たちは、私たち以外の誰かのために生きているという意味で、関係を作っていくことが、私たちの生き方の本質にあるんじゃないか、と考えています。

●汚染を排除すればいいの

私たちは環境問題を考えるときに、時どき誤解をします。環境に負担を与えているものがあって、その邪魔ものを取り除くのが問題の解決だと思ってしまふ。石油は、19世紀は汚染源だったのですが、20世紀は資源としてではやされ、21世紀は炭酸ガスを生み出す汚染源にされそうです。

田んぼの泥は、稲を育てる大切な栄養分を持った土壌ですが、結婚式場にばらまかれると汚れます。これらは、石油や泥自身の責任ではありません。つまり、

人間にとって素晴らしい環境をいかに実現していくかということは、けっして汚染物質やなにかの問題ではないのです。

もちろん排除しなければならない有害物質や有毒物質はあるのですが、そのことと環境問題の本質的なものを混同すると、非常におかしな清潔主義が蔓延してしまいます。

たとえば、アトピー性皮膚炎が増えたのは、日本人の体内に寄生虫が少なくなったことと関連しています。寄生虫がその分泌物を体内に排出することによって、皮膚炎を抑えることができるのです。無菌状態で生活するのは、けっして豊かな生活ではないわけです。

●国境を越えて脱経済へ

環境問題は、人間に固有の社会関係の問題です。

私は、土地所有、労働力、信用の脱商品化が重要だと言ってきました。商品にしているものと、してはいけないものをはっきり区別することで、現代社会とは違った社会のあり方を考えられるのではないかと思っています。

私たちは、暴力をいかに克服して非暴力の世界を作っていくか、女と男の関係をいかにより豊かな関係に変えていくか、ということをあわせて21世紀の社会システムを作っていかなければなりません。市場の商業だけではダメですし、計画経済だけでもダメで、協議のシステム、お互いに協同して助けあうようなシステム、とりわけ人格的な協力関係が非常に重要になります。

21世紀をめざすとき一番気をつけなければならないのは、経済的な問題の地位を、いかに人間生活の中で低くしていくかではないかだと思います。日本人には、特にそれが必要だと思います。

次の時代は、経済的な力が人間社会のあり方を決めるというやり方から、たとえ一歩でも半歩でも抜けているかどうか大事だと思います。もっと非経済的な生活の大切さを見ていく、それが次の社会のあり方の重要な視点になるでしょう。人格的な遠隔地交流（留学、研修、競技、通婚、養子、巡礼、旅行、放浪、休養）など、21世紀の新しい国境の越え方が重要です。

世界の森林と日本の森林 (その15)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●森林の復元

自然の森林は、日本のように豊かな森林生態系が成り立っているところでは多くの種類の入り混じった原生林であり、いったん破壊しても、何種類かの混じった雑木林になる。だが、人の植えた森林はたった1種類であることが多い。それは農作物の栽培にもあてはまるが、これは経済効果と栽培、育成の作業の単一化を図ることから起こる必然的なものである。しかし、環境を護るための緑化の場合は単一で良いとは思えない。もともと多数の種類の森林であったなら、復元にも多数が必要である。その組み合わせはなるべくもとの状態が好ましいことはいままでもない。しかし、役にも立たない雑木を植えるなんてばかばかしい、同じ植えるなら値段の高い上等の樹を植えるべきだというのが一般的な現実である。

●林木生産が環境財の育成か?

しかし、これは環境財としての森林と、木材生産の経済林とを混同した考えである。これははっきり議論しておく必要がある。経済林でもよく繁茂していれば環境財としての働きは存在する。その証拠

にシベリヤやカナダの針葉樹林は1~2種の優占種が存在するだけであるから、植林した針葉樹林と大差はない。それでも地球の温暖化の歯止めには貢献しているのである。シベリヤやカナダの森林は寒さのために種類数が少なく、寒さに強い数種類だけが生き残っているのである。乾燥した地域では乾燥に強い種類だけが生き残って繁茂しているはずだが、熱帯や温帯の乾燥地でギリギリいっばいで森林を形成していた場所は、もう地球上には残っていない。それはいったん伐採されると回復できないからである。

われわれが活動している黄土高原のように、森林があったのかなかったのかはっきりしない乾燥した特殊な土壌の土地では、育つものなら何でも良い、と割り切らなければならない。日本の造林は主にスギ、ヒノキの単植であるが、いろいろな種類の樹木を混ぜて植える混植は世界各地でもその例は少ない。ただし、近年アグロフォレストリーと称して数種の樹木と農作物との混植が熱帯地域で奨励され、一部で実現している。黄土高原の緑化に際して、われわれは混植を考えは

じている。それは、育ちがたい地域の緑化は「値段の高い樹木を育てる」というような贅沢なものではないからである。とにかく何でもよから緑化できれば、第1歩は成功なのである。そして、弱肉強食が起こって1~2種が残れば、それはそれで成功といえるだろう。全部残って共倒れになりそうなら間引きの作業をおこなえば良いのだ。

今のところ、土着の樹木はそんなに多種多様とはいえないが、モンゴルマツとアブラマツに加えて、シンジュ、サージ、ニセアカシアなどの混植が実施されはじめた。間引かねばならないほど茂ってくるのを祈りながら。

どうするGEN ノンストップ討論会!

第4回会員総会が終わりましたが、会員からの質問や意見がなく、「質問とかできる雰囲気じゃなかったのかな」と世話人のあいだで反省がありました。日ごろ、会員さんからのGENへの意見を聞く機会も少ないし、NPO法の施行を前に、討論の機会をもうけることになりました。

- 日時：9月5日(土) 14時~20時
- 場所：大阪市教育振興公社クラフトパーク開設準備室 (TEL. 06-636-1040、旧精華小学校・地下鉄「なんば」駅すぐ)
- 参加費：無料
- 問合せ・申込み：GEN事務所まで

GREENなんでも勉強会第3期

時代を感じ、時代を生きる

- 講師：柳田耕一さん(地球緑化の会長)
- 第1回：『私の水俣』9月25日(金)
- 第2回：10月16日(金)
- 第3回：11月13日(金)
- 場所：GEN事務所
- 時間：すべて18時30分~20時30分
- 参加費：3回で2,000円(1回700円)

訪日団準備進行中

一度延期になってしまった山西省大同からの訪日団ですが、秋の訪日が実現しそうです。10月22日から11日間の予定で準備をすすめています。内容は以前に話し合ったので、10月のはじめに実行委員会をもって具体的なことを決めていきたいと思えます。大同にはなかなか行けない、という方にも、現地のスタッフと交流していただく機会です。たくさんの方のご参加・ご協力をお願いします。

緑の中国 歴史篇 18

上田 信 (立教大学教授)

『楚辞』に収められた「山鬼」という作品を読むと、「山の神」に扮した巫女が、山林に生えている植物を身にまとっていた様子を窺い知ることができます。同じような植物との密接な関係は、『楚辞』のなかの巨編「離騷」にも見られます。戦国時代の後半、かつては南の大国として中原にも影響力をもっていた楚の国は、秦の圧迫を受けて衰退に向かっていました。楚の王族であった屈原は、懷王に仕えて秦に対抗する外交を進めたものの、国内の日和見派のために失脚。屈原は祖国の滅亡を予感しつつ、その心情を吐露した作品として「離騷」を著したとされます。

その冒頭自らの生い立ちを語るので、そこにも多くの植物が現れます。

紛吾既有此内美兮 紛として吾す
にこの内美あり

又重之以脩能	またこれに重ねるに脩能をもってす
扈江離与辟芷兮	江離と辟芷とをかぶり
紐秋蘭以為佩	秋蘭をつないで以て佩となす

ここに見られる江離・辟芷・秋蘭はいずれも香り高い草花。自分に備わった美德を、こうした香草にたとえているのです。こうした比喩が、楚の人々のイメージを喚起する力を持っていたことに注意を向けましょう。自らの装いを述べるところでは、「山鬼」にも登場した薜荔(ツルマサキやテイカカズラ)や菌桂(ニッケイ)など身にまとっていると記されています。

植物と共に生きる、それが楚の人々の生活であったのではないのでしょうか。

春の二風谷に里帰りして

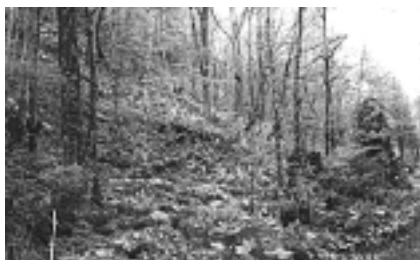
新井 幹子 (アイヌ文化交流センター)

5月初旬、北海道へ行ってきました。

この季節の北海道は30数年ぶりです。広葉樹の芽出しの淡い緑や赤、エゾヤマザクラ(カリンパニ)、コブシ(オツケニ)の花が山々を覆い、山全体が薄いピンクに見えます。幼い頃につながる夢にまで見た山並みでした。

私は山菜やキノコ取りが大好きで、散歩をしている時でも「何か食べられるものはないだろうか」とあたりをキョロキョロ見回してしまいます。「これは、狩猟民族の本能だからしかたがないでしょう」と言っでは、夫に笑われますが、見つけた瞬間が嬉しくてたまりません。

チコロナイが保全契約している上貫気別(旭)の山にも行きました。今年は例年より雪解けが早いということでエゾエンゴサク(トマ)、カタクリ(エシケリムリム)は残念ながら見ることはできませんでした。近くの沢の両脇は、フ



チコロナイが保全契約している上貫気別の山

キ(コロコニ)、ミツバが食べ頃でした。ミツバは卵とじ、フキはシンプルな煮物にしていただきました。北海道のフ

キ独特の香りや、野生のミツバの香りに満足しながら、何の工事も狭い道を行きかうダンパーカーに、この自然の状態はいつまで残るだろうかと、ふと不安も感じました。

チコロナイの買い取った山の近くのシケレベの沢にも入ってみました。樹木の匂いに圧倒されながら、二輪草(プクサキナ)の白い花や、とうの立ったギョウジャニンニク(プクサ)、伸びすぎたコゴミ(アイラフキナ)を観察しました。鳥の声を聞きながら至福の一時でした。

私は今、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が設置している「アイヌ文化交流センター」にいます。JR東京駅南口、八重洲ブックセンターと和光証券の間を50m位入った所にあるビルの3階です。お近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。アイヌ関係の書籍(現在250冊位)やビデオを見ることができます。お茶もお入れします。待ち合わせ場所としても最高です。

【アイヌ文化交流センター】
〒104-0028 東京都中央区八重洲2-4-13
ーパンスクエア八重洲3F TEL. 03-3245-9831 FAX. 03-3510-2155
平日13時~21時(入館は20時まで)、土曜日、祝日10時~18時
日・月曜日、祝日の翌日閉館

第2期計画現状報告

6月28日までで、第1期計画からの繰越金も入れて合計5,463,418円になりました。寄付された方は第1期も入れて438人です。

第2期計画は今年12月9日までで、募金目標は700万円です。この目標を達成し、できるだけ早く第2期の山林買い取りを実現したいと思います。

【“チコロナイ”連絡先】
武田繁典 〒546-0003 大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL./FAX. 06-704-7720)
貝澤耕一 〒055-0101 北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL. 01457-2-2089)
FAX. 01457-2-3991)
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

チコロナイアイヌ語講座

~いやでもわかるアイヌ語~
第4期第3回

- 日時: 7月25日(土) 14時~16時
- 場所: GEN事務所
- 資料代: 第4期(6回)分で2,000円
- 問い合わせ: 平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著白水社)の7からですが、初心者でも入れるように工夫しますのでどうぞ。アイヌタイムスも読みます。1回だけの飛び入りも大歓迎(400円)。

第35回 チコロナイ学習会

- 日時: 7月25日(土) 16時~18時
- 場所: GEN事務所
- 内容: 「アイヌ文化に学ぶ」ビデオを見ます。
- 参加費: 100円+カンパ
- 問い合わせ: 武田繁典
- ★1回だけの飛び入りも大歓迎!
- ★チコロナイアイヌ語講座・学習会とも8月はお休みです。

ナショナルトラスト 「チコロナイ」現地宿泊研修会 参加申込み受け付け中

- 【チコロナイ子供キャンプ】
- 日時: 1998年8月10日午後1時~13日午後1時(千歳空港集合、解散)
 - 費用: 3万円
- 【第5回二風谷ワーキングツアー】
- 日時: 1998年8月18日午後3時JR富良野駅集合~23日午前12時二風谷解散
 - 費用: 5万円
 - 問い合わせ・申込み: 武田繁典まで。

チコロナイの森の植物たち(3)

武田 繁典 (チコロナイ部会担当世話人)

今回は紙面が少ないので、チコロナイの森とシケレベ沢の周辺で見た春の山菜の植物名だけを紹介します。食べ方などは後日に。

- 1 ギョウジャニンニク ゆり科 プクサ(pukusa)
- 2 タラノキ うこぎ科 アユシニ(ay-us-ni 矢が生える木)
- 3 ヤマヨモギ(エゾヨモギ、オオヨモギ)ノヤ(noya)
- 4 ウド もくれん科 チマキナ(ci=ma-kina 私たち 焼く 草→私たちが焼いて食べる草)
- 5 クサソテツ(コゴミ) うらばし科 アイラフキナ(ay-rap-kina 矢羽根草、まだ葉が開かない裸葉の時のゼンマイをソロマsoromと呼び食料にする)

- 6 アキタブキ(フキの変種) きく科 コロコニ(kor-koni) フキの葉はコロハム(kor-ham)

- ふきのとうはマカヨ(makayo)
- 7 カタクリ ゆり科 エシケリムリム(eskerimrim)
- 8 ニリンソウ(イッポンナ) きんぼうげ科 プクサキナ(pukusa-kina)
- 9 エゾエンゴサク けし科 トマ(toma)
- 10 モミジガサ(シドケ) きく科

10のモミジガサはアイヌ語がわかりませんでした。どなたかご存知の方がいましたら教えて下さい。また、上の中で、記述の間違いなどがありましたらご指摘下さい。

【参考文献】
「原色日本植物図鑑木本編」(保育社)、
「牧野植物図鑑(北隆館)」、「萱野茂のアイヌ語辞典」(三省堂)、「アイヌと植物」(アイヌ民族博物館)



もっと知りたい地球温暖化防止
連続公開セミナー

【第2回】

- 日時：7月21日(火) 18時～21時
- 場所：ウイングス京都セミナー室B
- 内容：森林・幻の吸収源のその後、脱フロン・代替フロンへの道
- 講演者：小倉正氏(熱帯林行動ネットワーク)

【第3回】

- 日時：8月3日(月) 18時～21時
- 場所：ウイングス京都セミナー室B
- 内容：温暖化問題と対策の科学最前線
- 講演者：松岡譲氏(京都大学教授)

【第4回】

- 日時：8月28日(金) 18時～21時
- 場所：未定
- 内容：温暖化防止の国際制度、排出権取引・クリーン開発メカニズムとは
- 講演者：佐和隆光氏(京都大学教授)
- 参加費：一般 500円
- 問い合わせ・申し込み：気候ネットワーク(京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル3F TEL. 075-254-101 FAX. 075-254-1012)

第9回

全国トンボ市民サミット神戸大会

- 日時：8月22日(土)、23日(日)
- 場所：神戸市シルバーカレッジ他
- 【8月22日(土)】
- ★エクスカージョン(野外トンボ見学会)
- 集合：新神戸駅(新幹線)1階 受付1時30分～、出発12時30分
- 北、中央、西の3コースにわかれて、ため池、講演、小学校ビオトープ、震災メモリアルパークなどを見学。
- 参加費：1,000円
- ★雨天決行、交流パーティーもあります。
- 【8月23日(日)】
- 場所：神戸市シルバーカレッジ(神戸市北区しあわせの村内)
- 大会資料代：500円
- ★オープニング：10時～
- ★基調講演：10時30分～ 『水辺の記憶』河合雅雄氏(京都大学名誉教授)
- ★分科会：13時～
 - ・第1分科会・環境学習
 - ・第2分科会・市民の環境保全活動
 - ・第3分科会・都市と「農」
- ★サミット全体会議：15時～16時
- ・各分科会・エクスカージョン報告
- 問い合わせ・申し込み：第9回全国トンボ市民サミット神戸大会実行委員会事務局(TEL. 078-392-1577、FAX78-

392-1576E-MAIL : eld@po.hyogo-iic.ne.jp ホームページ : http://www.hyogo-iic.ne.jp/~INS93003/tombo/

地球温暖化と食糧問題セミナー

- 日時：9月16日(水) 10時30分～16時30分
- 場所：仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山、TEL. 022-265-2450)
- 講演：①「農からの発想」星寛治氏
②「中国黄土高原の緑化に挑む」高見邦雄氏
③「世界の食糧問題と地球環境」中川光弘氏
- 参加費：無料
- 主催：JA全中(JAグループ環境推進協議会)
- 申込み：日本農業新聞セミナー事務局(FAX. 03-5295-3370)JA宮城中央会農政組織部(FAX. 022-264-8239)
- ★大阪でも10月6日に開催されます。詳細は次号でお知らせします。

編集後記

? 今回はなんか読みにくいなあ、と思ったあなたはスルドい! 文字がひとまわり小さくなりました。おまけに写真も少なく、ごめんなさい。

GEN 事務所は8月13日(木)から19日(水)まで夏休みをいただきます。